國に先立つて開かれたのであつて、これをペリオ教授の奉職した有名な Collège de France について見ても、その最初の支那學の講座が開かれ、Abel Rémusat がこれを擔當したのは一八一五年――時はまさに前年エルバに流されたナポレオンが、その地を脱出してフランスに歸り、六月ワルテルローに敗北して沒落の運命に陷つた年の正月で、その十六日に就任講演をして居ります。その後ジュリアン、サンドニー、シャヴンヌ、マスペローと相傳へて現在は六代目の教授となつて居る次第であります。かく早くから中國研究の起つたフランスに於て東方學の修得に精進したペリオ氏は、前述のやうに一九一一年明治四十四年にこの學院に創設せられた「中央亞細亞の言語歷史考古學講座」の擔當者となり、爾來歿時に至るまでその職に在つたのでありますが、講座の名稱にかゝはらずその中國に關する學術に於ける見識知識の高く深かつたことは、更めて申すまでもないことであります。その學問は社會とか經濟とか宗教とか美術とかいふ分野に立て籠つたのではなく、廣くそれらに亙つた文獻の考證學的研究が主たるものであつたと思ひます。ある人は彼を「中國とヨーロッパ・印度・イスラムとの交渉史の大家であつた」といひ、またある人は「中國目錄學の大家であつた」と記して居りますが、共に間違ではないにしても、こうした範圍に彼の學問を限ることは氣の毒で、もつと廣い分野に亙る文獻學的研究に大なる成果を擧げた人であります。さうしてその特色としては、如何なる研究に於てもその知識が實に該博で且つ精緻を極め、その上にこの人に惠まれた特種の才能ともいうべき廣い言語の知識を縱横に驅使して、前人未發の天地を拓き、論述の仕方も誠に整然たるものであつた點などを擧げるべきであります。由來フランスの東方學者の研究態度は、レミュザー以來傳統的にかゝる精緻な考證學風の特徴を有したもので、彼の師シャヴンヌ氏の如きも、有名な史記の飜譯をはじめ、幾多